

# やまがら



毎年、冬には自宅に来てくれます。

## 一人ひとりが大切にされる 人間尊重社会を実現しよう。

- 官民癒着や税金の無駄遣いをやめさせ、高い市民負担を軽減させよう！
- 教育と子育て予算を増額し、医療・介護・福祉を充実させる市政に転換させよう。
- 電車・バス・フェリーのシルバーパスを実施して元気な高齢者が活躍する街にしよう。
- 伊方原発をやめて、自然エネルギーへの転換を促進しよう。(PPS電力の利用促進)
- 命、人権、環境、平和を大切にし、子どもたちに安心未来を引き継ごう。

松山市議会議員  
梶原ときよし  
No.36



発行・梶原ときよし

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。  
2019年秋号

1人ひとりが大切にされる  
人間尊重社会を実現しよう。

●官民癒着や税金の無駄遣いをやめさせ、高い市民負担を軽減させよう！  
●教育と子育て予算を増額し、医療・介護・福祉を充実させる市政に転換させよう。  
●電車・バス・フェリーのシルバーパスを実施して元気な高齢者が活躍する街にしよう。  
●伊方原発をやめて、自然エネルギーへの転換を促進しよう。(PPS電力の利用促進)  
●命、人権、環境、平和を大切にし、子どもたちに安心未来を引き継ごう。

藤田教育長は前任期の3年間において本市教育委員会の歴史上、二度とあつてはならない汚点を拭い去る行動を起こそうとした。右翼史観丸出しの決定を継続しました。藤田教育長もその一人ですが、自分達の偏った思想信条を、再び学校現場に押し付け

永江さんの3年間にわたる、平和のための真面目で地道な活動への評価と期待があり、7月に行われた参議院選挙では市民と野党が共同で応援した永江孝子さんが、与党の候補に8万6千809票の大差をつけて圧勝しました。

永江さんの3年間にわたる、平和のための真面目で地道な活動への評価と期待があり、33万5千425票もの得票につながったことは間違ひありませんが、安倍政権の年金破壊と消費税増税の庶民意いじめに対し、市と野党が共同・分担してそれぞれの役割を果たして闘つたことが大きな後押しになりました。愛媛での野党の勝利は、とりあえず安倍改憲の策動を阻止し、年金のマクロスライド制廃止と消費税廃止への足掛かりを付けたことになり、大きな成果がありました。

ただ、今回の参議院選挙では、大変残念というよりは本当に許せないという事件がありました。

それは、元愛媛県知事であった加戸守行という人物が与党候補の応援で、大勢の市民がいる中、永江候補を誹謗中傷しただけでなく、「昨年7月に起きた西日本豪雨で西予市野村町が洪水被災を受け、死者が出たのは、民主党政権時代に洪水対策予算を凍結したからだ」と、デタラメな言いがかりました。

教科書を、教科に全くの素人である教育委員がそれを否定し、それに反する教科書を決めていいのか?ということです。  
分かりやすく言えば、英語を教えることができない教育委員が、英語の先生の意向に反して、英語の教科書を決めるということですが、あっていいのか?  
楽譜の読みない教育委員が音楽の教科書を決めいいのか?ということです。誰がここまで言うと5人の教育委員から「教科書の選定権限は教育委員会にある。教育委員が決めて何が悪い」と、開き直りの声が聞こえてきそうですが、私から言えば、育鷹社歴史教科書採択問題 9月22日付 愛媛新聞

松山市定例市議会(年4回)に  
10年間、38議会連続登壇を  
続けています。

\*2019年9月現在(連続登壇記録更新中)

2010年の松山市議会議員当選以来、全定例議会で質問あるいは討論を行ない、一問一答方式の導入をさせなど、これまでのセレモニ化した議会に風穴を開け続けています



「一問一答方式」の導入で緊張感のある議会に パネルを使って分かりやすい質問 答弁する市議

市議会議員の一人として、申し訳ないといふ思いと眞警に対する怒りでいっぱいです。事件が起きたプロセスを解明し、二度と本市の警察権力が暴走しないように、けん制するとともに「人権尊重市政実現の為に」について質問します。

HPでは梶原の活動予定や  
全定例議会での質問登壇が  
動画でご覧いただけます。

市政他、何でも相談をお受けしています。  
ご連絡ください。

●午後1時～午後5時まで(月～木)  
●金・土・日・祝日はお休みです。

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

7月28日付 愛媛新聞

2面へ

# 学校現場を無視する藤田教育長の再任に反対!!

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。  
私は議案第101号

教育長の任命について同意でございませんのでその理由を述べてきます。

2015年に行われた、本市中学校歴史教科書選定において、本市教育委員会は、市内29の中学校の生徒に教科を教えるプロの先生が希望した教科書(東京書籍を21校が希望し、帝国書院を8校が希望)を選定せず、教師が誰一人、中学校がただの1校も希望しなかった戦争賛美の教科書と言われる育鷹社の教科書を選びました。

藤田教育長は前任期の3年間において本市教育委員会の歴史上、二度とあつてはならない汚点を拭い去る行動を起こそうとした。右翼史観丸出しの決定を継続しました。藤田教育長もその一人ですが、自分達の偏った思想信条を、再び学校現場に押し付け

たことは、許しがたい行為そのものです。  
本来、公正中立でなければならない教育委員の使命を放り出して、学校現場を信用しながらだけではなく、学校に無用な混乱をもたらし、再び本市立学校への信用まで奪われた事実は、負の歴史というだけでございませんし、到底同意できませんし、あってはならないと考えます。

中学校の主役は生徒たちです。生徒のために日々歴史教科書を研究し、生徒に教えるプロの歴史担当教師29校約80人が、300時間以上もかけて精読し、厳選した教科書が選定されず、素人の教育委員5人が僅か10分の会議で、先生や学校の意に反し選んだ教科書を、再び継続したことは、本市の生徒たちにとってこれほど不幸なことはありません。

何度も言いますが、私が申し上げたいのは、教育委員の思想信条はさておき、生徒たちが学ぶ書の選定を、大切な教科書の選定を行なうのに、その前提ともいえる教科の先生達がベストとがべストとして選んだ

このまま行けば、私立の中学生受験がますます激化しそうで、本市の子ども達のことが本当に心配なりません。

新しい教育長には、市役所のOBを連続して登用するのではなく、長く教育にたずさわり、教育に関して、公正中立の立場を十分に理解する能力の高い人にお願いすることを求め、改めて藤田仁氏の再任には同意できないことを表明し、梶原時義の反対討論を終ります。

このまま行けば、私立の中学生受験がますます激化しそうで、本市の子ども達のことが本当に心配なりません。

教育委員にベストな教科書の選定能力があるから権限を与えてられているのではないか、ベストな教科書を選ぶ能力がある先生達が決めた教科書が、政治やワイロに左右されず、民主的に決められたかどうかを判断する権限、つまり承認する権限が与えられていました。教育委員が決めて何が悪いと、開き直りの声が聞こえてきそうですが、私から言えば、育鷹社歴史教科書採択問題 9月22日付 愛媛新聞

教科書を、教科に全くの素人である教育委員がそれを否定し、それに反する教科書を決めていいのか?ということです。  
分かりやすく言えば、英語を教えることができない教育委員が、英語の先生の意向に反して、英語の教科書を決めるということですが、あっていいのか?  
楽譜の読みない教育委員が音楽の教科書を決めいいのか?ということです。誰が今まで言うと5人の教育委員から「教科書の選定権限は教育委員会にある。教育委員が決めて何が悪い」と、開き直りの声が聞こえてきそうですが、私から言えば、育鷹社歴史教科書採択問題 9月22日付 愛媛新聞

2019.9.30



